

横荒山 (稗己屋山)

横荒山国有林はモミツガの林木遺伝資源保護林。約81haという広大な原生林が残されている。主にモミツガが生育し、ヤブツバキやスナミズミカドなど、針葉樹と広葉樹が混生している。その山名のとおり、林内や周辺には急傾斜地が多く、深い横荒川にその斜面が山を立っている。またの名を稗己屋山。かつてこの一帯に木地師集団が住んでおり、山中に小屋を建てて備荒作物である稗を栽培していたとも伝わる。この山の東側にある千本山に對比し「西の体」とも呼ばれている。

四国百山に選ばれている山でもある。至急稗畑
(四国百山と四国百名山があり、四国百名山には選定されていない)

木地師
木地師はくろくを用いて枿や盆等の木製品に加工製造する職人。11世紀は9世紀に近江の国(滋賀県)に隠居していた文徳天皇の第一皇子 小野宮惟喬親王の岩屋で木地師の小屋を建てた。孫とされる。諸国の山に入り、七合目以上より上の木を(8合目と)自由に採る天皇の給命を持っていた。ケヤ、トチサクウなど良質の木材を求めて20-30年で山から山へ移動して生活していた。氏子狩、山へ初穂料を徴収する制度があり、巡回人が木地師の尾根所を巡回して記録を残し、全国に木地師の里が確認された。

山から山へ
宝蔵山へ
引返す
労を惜しむ

迷ったら引返せ=山の鉄則
山と遭難は隣り合わせ。もし山で道に迷ったら、迷ったところまで引返すことが鉄則。しかし、わかれている山を歩いた労力を倍かけて迷った地点に戻る行為はなかなかできない。そして、下ればなんとかなるだろう、という楽観バイパスが、働き繁る下の方へおろしてしまいうことになる。下ればガケや滝にははまされて、最悪の事態にもなりかねない。特に横荒山の下りは用心すること。

安芸営林署 横荒製材事業所が
あり、小谷や名荷の真落に
下った人が住み山に
暮らして生活を営んでいた。
今も住居跡などが当時の
繁栄と物語りよりに、木
と林の中に残っている。

伊尾木森林鉄道
横荒線(4.800m)が
1927~1938にかけて
木材を搬出していた。
堅固な石積みが残る。



それは火死を要する
横荒山の山頂には、
アケボノツツジ、アケボノ
ツツジ、アケボノツツジ
が生育している。
これは「焼要系」とは、東海
南部-北伊予-四国-
九州の温帯地域に
生育する固有種とある。

真正面-烏帽子森や
秋の木山 横荒山一望
北西に杉谷山や宝蔵峠

隠前 ~ 四根点12 約2.7km
四根点12 ~ 千本山(山頂) 1.1km
千本山(山頂) ~ 四根点 0.8km
四根点 ~ 保護看板 2.7km
保護看板 ~ 隠前 7.3km